
ギリギリスとアリ

尾崎哲拓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ギリギリスとアリ

【Nコード】

N8881L

【作者名】

尾崎哲拓

【あらすじ】

ギリギリスとアリの話です。

（前書き）

初めて書きました。稚拙な文章で読み辛いかもしれませんが、よろしく願います。

ある春の暖かい日のこと。

ある草むらにキリギリスがいました。

このキリギリスはまだ幼いのですが、暖かい季節なので食べ物には困りません。

あまり苦勞せずに食べ物を手に入れられるので、キリギリスは歌を歌って遊んでばかりいました。

ある日キリギリスが歌っているところにアリが通りかかりました。

アリは自分や仲間のために食べ物的一生懸命運んでいます。

アリは言いました「キリギリスさん。冬になると食べ物がとれませんよ。今のうちに蓄えておかないと大変ですよ。」

するとキリギリスは「まだ大丈夫さ。そんなに真面目に働くななんて馬鹿らしくてやってられないよ。」と言ってまた歌を歌いはじめました。

そして冬になりました。アリは春からの蓄えがあるので食べ物に困ることはありません。

一方、キリギリスはずっと歌ってばかりいて、働いていなかったの
で食べ物がありません。

そしてキリギリスは死んでしまいました。

しかし飢え死にはありません。寿命が尽きたのです。

アリは巣の中で「ギリギリスさんは大丈夫かな。」と独り言を言っていました。

と、その時、急に巣が崩れはじめました。

人間が土を掘り返しているのです。

その結果、アリは土に埋もれて死んでしまいました。

そしてまた春が来ました

現在、ギリギリスとアリが住んでいた草むらは、公園となり、若いヒト達の元気な声が響き渡っています。

そして、残された僅かな草むらにはギリギリスが数匹住んでいます。

（後書き）

ありがとうございました。意見を頂けると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8881/>

ギリギリスとアリ

2010年10月14日22時46分発行